

くすり一口メモ

経口オピオイド製剤による疼痛管理

「癌対策基本法」(2007年4月1日施行)の第16条には、「疼痛等の緩和を目的とする医療が早期から適切に行われるようにすること」と、緩和ケアの早期実施が明文化され、全国の癌拠点病院に緩和ケアチームの設置が求められています。このことに伴い国内では、使用可能なオピオイド製剤が増え、病態に見合った選択肢が可能となってきました。

一方、疼痛緩和治療には、最近まで経口の速放性オピオイド製剤にはオプソ(塩酸モルヒネ)しかなく、オキシコンチン錠を服用している患者へのレスキューにはオプソを使用せざるをえませんでした。予防投与するベース薬とレスキュー薬は同一成分の薬剤を使用するという基本から外れていました。しかし、オキノーム散(塩酸オキシコドン)の発売によりモルヒネ製剤にはモルヒネ製剤のレスキュー薬、オキシコドン製剤にはオキシコドン製剤のレスキュー薬を使用することができるようになりました。

今回は、経口オピオイド製剤の特徴と分類について一覧にまとめてみました。

| 成分 | 薬品名 | レスキューとして | 投与経路 | 変換比 | 効果発現までの時間 | 最大効果までの時間 | 効果判定(投与後) | 半減期 | 作用持続時間 | 基本的投与間隔 | 最短投与間隔 |
|----------|--------------|----------|-------|-------------|-----------|-----------|-----------|---------|--------|---------|--------|
| 塩酸モルヒネ | 塩酸モルヒネ末(原末) | | 経口 | 1 | 10~15分 | 30~60分 | 1時間 | 2~3時間 | 3~5時間 | 4時間 | 1時間 |
| | 塩酸モルヒネ錠 | | 経口 | | | | | | | | |
| | オプソ内服液 | | 経口 | | | | | | | | |
| | モルヒネ水 | | 経口/注腸 | | | | | | | | |
| | パシーフカプセル | x | 経口 | 15~30分 | 40~60分 | 1時間 | 11~13時間 | 24時間 | 24時間 | 24時間 | |
| 硫酸モルヒネ | MSコンチン錠 | x | 経口 | 1 | 70~90分 | 2~4時間 | | 2.6時間 | 8~12時間 | 12時間 | 8時間 |
| | モルベス細粒 | | | | 30分 | | | 7~9時間 | | | |
| | MSツワイスロンカプセル | | | | 60分未満 | | | 2時間 | | | |
| | カディアンカプセル | | | | 40~60分 | 6~8時間 | 5時間 | 24時間 | 24時間 | 12時間 | |
| | カディアンスティック | | | | | 4~6時間 | 22時間 | 24時間 | 24時間 | | |
| | ビーガード錠 | | | | | | | | | | |
| 塩酸モルヒネ | アンバック坐薬 | | 直腸内 | 1/2~2/3 | 20分 | 1~2時間 | 4~6時間 | 6~10時間 | 8時間 | 1~2時間 | |
| 塩酸オキシコドン | オキシコンチン錠 | x | 経口 | 2/3 | 1時間 | 2~3時間 | 2~4時間 | 6~9時間 | 12時間 | 12時間 | 8時間 |
| | オキノーム散 | | | | 12分 | 100~120分 | 100~120分 | 4.5~6時間 | 4~6時間 | 4~6時間 | 1時間 |
| フェンタニル | デュロテップ | x | 経皮 | 1/100~1/150 | 2時間 | 45時間 | 24時間 | 17時間 | 72時間 | 72時間 | 72時間 |

医療用のモルヒネには塩酸塩(モルヒネ原末)と硫酸塩(MSコンチン)があるが、これらの作用は臨床的には同じとされている。
注) 作用時間などに関しては、文献により若干の違いがある。

<参考文献>

Pharma Medica 25(7) : 183-192, 2007

がん疼痛治療のレシピ2007, 的場元弘, 春秋社

がんの痛みよ, さようなら! - こうすればとれる「がんの痛み」 -, 武田文和・高橋美賀子・石田有紀, 金原出版

(鹿児島市医師会病院薬剤部 湯川 久信)